京城新報

●新聞料 ▲一ヶ月前金 ▲三ヶ月前金 ▲六ヶ月前金
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回金三十錢▲四號活字十四字詰一行金四十五錢
●陰曆 三月十七日
發行兼編輯人 秋山忠三郎
發行所 京城西署西小門通 京城新報社 電話六六三番

韓國に働きたる人物 其十

放浪子

駐清公使男爵林權助(下)

▲渠が公使として京城に赴任した當時は、何人も公使たる技倆があるや否を疑つて居た、故に先輩たる加藤增雄の如きも身は宮内府顧問でありながら却て指圖がましい擧動もあつたと云ふことだ、

▲所へ大江卓といふ豪の者も來る、大三輪長兵衛も來た、夫れ〲一派を立てゝ互に相下らぬと云ふ有樣故、渠は中々遣りにくかつたのである、

▲韓廷に對する外交よりも此三派に對して帝國公使たる威嚴を保つことが、最も骨が折れたのであらう、韓帝の巧智なる能く之を操縦するを以て、此間に處したる渠の苦心は想像以外であつたらう、

▲渠は加藤增雄といふ柔和なる猫撫聲の韓帝が御氣に入り男の後へ來たので、頗る損があつたと思ふ、なぜなれば渠の容貌は加藤に反して無愛相で、少し激したるときは喰ひ付きそうな、物凄なる顏色であるから韓帝は痛く嫌つたのである、之が爲に外交上に渠は大分支障を受けたであらう、して見ると外交家には容貌も亦關係を有するのである、

▲併し渠の負け嫌ひ根性は、加藤大江等の對立を壓し、韓廷へも威嚴を示し、百方苦慮して自家の立場を開拓したのは、慥に渠が百折不撓の精神、意志の強き外交家であることを表明し得たのである、

▲渠掉尾の活動則ち日露戰役後、伊藤公と共に第一協約をなしたる功勳は、何人も記憶に新なるを以て、今更に茲に説く必要はなかろう、而して伊藤公と共に働きたるときは、第一順潮に掉したのであるから、左程の苦心もなかつたのである、

▲渠が尤も苦心したのは日露戰爭前は勿論戰爭中であつた、惟ふに日本の捷報に接せざる最初と、日露の間が破裂せずして外交中に屬する時代が最も渠の苦心慘憺したのである、李容翊や李根澤が頻に陰謀を廻らして稍もすれば大事を引起さむとする、それを未前に破壞する抔、仲々復雜にして到底今日の統監政治の樣なものではなかつた、併し此難關に處した爲に渠は手腕を練磨して、先づ一廉の外交官となつた、

▲日本に於ける有數の外交官たる資格は出來たが、渠の器は甚だ小である、自分では將來外務大臣になる氣で居らうが、夫れは一寸六ッ箇敷い、併し林董が大臣になつて居る位だからなれぬこともあるまいが、日本の爲には不幸である、

▲若し在外公使をやめて、本省に戻るなら次官は適當な所であらう、近來渠の次官となる噂が高い、次官としては申分はない、彼の得意は公使よりも却て次官の方にあるかも知れぬ(完)

瓜哇の土人政策(上)

(臺灣日々轉載)

蘭領印度は母國との關係に於て二の異なりたる部分に大別することを得べし其の一部は和蘭の最上權を認むるも行政其他の政權が地方酋長の手に在るものを包括し他の一部は全然和蘭に臣服して其の直轄植民地たるものを總括す吾人が本編に於て觀察せんとする瓜哇は全く後者に屬せり

瓜哇人は純然たる和蘭の臣民にして和蘭の皇帝は同じく彼等の皇帝たり從前瓜哇を統治せし諸侯の子孫は單に和蘭の官吏たるに過ぎず和蘭國王の名によりて蘭領印度の政治を執れる太守の爲めに此等の諸侯は任命黜陟せらるべし瓜哇人はハーダより出る法律によりて處罰せられ瓜哇人の納付せる租税は直ちに和蘭の國庫に流入す蘭領印度太守の下に五人より成立せる參事會員あるも別に重大の職權あるにあらず立法的及顧問的の職務を行ふに過ぎざれば何等の勢力なし瓜哇の首府たるバタビヤに種々の政治機關ありて所謂デパートメンッチレクトールの下に隸屬せり此の機關は太守即ちゼチラルガバナーと駐在官即ちレジデントの間を連結せる關鎖たりレジデントなる名稱は初め和蘭が未だ瓜哇の直接支配者たらざりし時、瓜哇を統治せる諸侯の宮廷に和蘭の代表者として駐在せるより起れり今日は此等の諸侯悉く政權を失ひたればレジデントも從つて當初の性質を失ひガバナー若くはプレフエクテン、デル、レジデンツと稱すべきものなるにも拘はらずレジデントの名稱は今も猶ほ存在せりレジデントは本來瓜哇人に對し和蘭政府を代表せるものにして瓜哇人は太守を知らず又バタビヤに於けるジレクトールを知らず唯レジデントと其の屬僚官吏を知るのみ

和蘭の直轄地たる瓜哇及其隣島マチユラは分れて十七州となり各州に駐在官を置き駐在官の下に助役(アッシツテント、レジデンテン)數人あり又監督官吏若干あり此等は租税の徵收、農耕の監督、家屋の建築、水利の設備、警察の取締等を監督す駐在官助役の下に瓜哇貴族の有力者一名ありて行政事務に參與す之をレゼントと稱しレゼントは一定の俸給を受くる官吏に過ぎざれども瓜哇の貴族にして曾て瓜哇の君主たりし者の子孫若くは家族なれば今日も猶ほ一種の勢力を瓜哇人に有す斯る瓜哇諸侯を官吏に登庸するは瓜哇人の懷柔に非常の効益あり以て和蘭の植民地政策の巧妙を見るべし瓜哇貴族を官吏に任用するによりて一種の僧侶政治を形成し其の總轄者として和蘭政府を代表せる太守立てり漸く瓜哇土人を各州の行政官吏と爲し駐在官助役の下に在りて土人的勢力を揮はしむるは一方に於ては和蘭人は瓜哇人との意思を疏通し相互の感情融和に利益あるのみならず他方に於ては瓜哇に在りて政務を執れる和蘭人官吏の職務執行を容易にせしむるの効能ありて一擧兩得の政策と謂ふべし

三月中京城物價表(續)

△木材の部			
杉大角(尺方角)	本	三、一〇〇	三、一〇〇
檜大角(同)	同	二五、〇〇〇	二五、〇〇〇
松大角(同)	同	九、二〇〇	九、〇〇〇
杉五寸角	間	二、〇〇〇	二、〇〇〇
杉四分板	坪	一、四五〇	一、四〇〇
同六分板	同	一、七〇〇	一、七〇〇
松六分板	同	一、四〇〇	一、四〇〇
杉四分板(無節)	同	一、八〇〇	一、八〇〇
杉二間(大ヌキ)	枚	、三二〇	、三〇〇
同(中ヌキ)	同	、二七〇	、二七〇
同(小ヌキ)	同	、二四〇	、二四〇
松二間(垂木)	本	、二六〇	、二六〇
同 丈(同)	同	、二三〇	、二三〇
同 間(同)	同	、一二五	、一二〇
△ペイント類			
ホワイトジンク油(廿八磅入)	罐	六、五〇〇	六、五〇〇
パック會社ボイル油(五瓦入)	同	九、八〇〇	九、八〇〇
ウヰルキンソン會社ボイル油	同	品切	品切
日本製繝油(二斗入)	箱	三、〇〇〇	三、〇〇〇
同コールタン(同)	同	二、六〇〇	二、六〇〇
同胡粉(十貫目)	俵		
舶來パテ(十四ポンド入極上等)	玉	一、二〇〇	一、二〇〇
パテ(日本製)並	同	、九〇〇	、九〇〇
△煙草之部			
オールド(卅個入)	個	四三、七〇〇	四三、七〇〇
ヒーロー(同)	同	四〇、五〇〇	四〇、五〇〇
ハーロー(同)	同	二九、七〇〇	二九、七〇〇
ドラム(同)	同	二三、九〇〇	二三、九〇〇
スター(同)	同	四四、五〇〇	四四、五〇〇
チエリー(同)	同	三九、五〇〇	三九、五〇〇
△其他の部			
石油 松票	箱	三、五七〇	三、五六〇
同 勝利票	同	三、三〇〇	三、三〇〇
同 錨票	同	三、一七〇	三、一五〇
牛皮 五六斤廻	百斤	三五、〇〇〇	三六、〇〇〇
同 十斤廻	同	二九、五〇〇	三三、〇〇〇
同 十五六斤廻	同	二五、五〇〇	二八、〇〇〇
牛骨	同	一、七〇〇	一、七〇〇
牛蠟	同	一三、五〇〇	一三、〇〇〇
燐寸猿人印	噸	二六、〇〇〇	二四、〇〇〇
石炭 日本塊炭上等	同	一三、五〇〇	一四、〇〇〇
同 一等	同	一五、〇〇〇	一七、〇〇〇
無烟塊炭	同	一六、〇〇〇	一七、〇〇〇
同 粉炭	同	一四、〇〇〇	一五、〇〇〇
セメント 淺野	樽	六、八〇〇	六、八〇〇
香港	同	六、六〇〇	六、六〇〇
小野田	同	六、七〇〇	六、七〇〇
板硝子	箱	七、九〇〇	八、〇〇〇
木炭 上	貫	、一八〇	、一八〇
同 並	同	、一五〇	、一五〇
薪 上	同	、〇八五	、〇八五
同 並	同	、〇七〇	、〇七〇

京城諸職工平均賃金表

業別		三月	二月
日本人大工	日給	一、五〇〇	一、六〇〇
同 左官	同	一、六〇〇	一、六〇〇
同 石工	同	二、〇〇〇	二、〇〇〇
同 手傳人夫	同	一、二〇〇	一、二〇〇
同 トタン鉄力職	同	一、五五〇	一、五五〇
同 木挽	同	一、六〇〇	一、六〇〇
同 疊師	同	一、六〇〇	一、六〇〇
同 ペンキ塗職	同	一、五五〇	一、五五〇
同 仲仕	同	一、一〇〇	一、一〇〇
同 指物	同	一、六〇〇	一、六〇〇
同 車夫	同	一、四五〇	一、四五〇
韓人車夫	同	一、二〇〇	一、二〇〇
日本人桶屋	同	一、四五〇	一、四〇〇
同 煉化職	同	一、六五〇	一、六五〇
同 瓦職	同	一、六〇〇	一、六〇〇
同 活判職	同	、八五〇	、八五〇
同 鍛冶職	同	一、五〇〇	一、五〇〇
同 提灯職	同	、八五〇	、八〇〇
同 井戸堀	同	一、七〇〇	一、七〇〇
同 菓子製造	同	、九五〇	、九〇〇
同 表具師	同	一、三〇〇	一、三〇〇
韓人表具師	同	一、〇〇〇	、九〇〇
同 大工	同	一、二〇〇	一、一五〇
同 木挽	同	一、二〇〇	一、二〇〇
支那人大工	同	一、三〇〇	一、二五〇
同 木挽	同	一、三〇〇	一、二五〇
同 石工	同	一、二五〇	一、二五〇
同 煉瓦職	同	一、三五〇	一、二五〇
同 人夫	同	、六〇〇	休
韓人井戸堀	同	、八五〇	、八五〇
同 人夫	同	、五〇〇	、五〇〇

讀者文壇

衛生試驗所設立の必要を説く

南山の麓にて 青望

荒野に殘れる尾花の如く將た秋の夜の長きを託つ實に蕭條の恨みにありし韓國の衛生は秋と過ぎ春と逝き滔々と移り變る時代思潮の趨勢に激され怒濤咆哮する文明曙光の恩澤に浴す諸種事物の改善進運に伴れ今や漸く宿年の朦霧を排し時々刻々古風古習の拘泥を脱し以て朝に夕に駸々乎として開明の彼岸に向け着々に掉さして進みつゝあるの現狀は焉ぞ欣ぶべき事柄にして遠からずして衛生機關の整備の曉を見に至らん歟誘ては則ち國民保健の福祉を現實に視ることの得べきを期待さるべきものにして國家の大慶之より者は莫しと謂べきなり爾り然れど冷々たる眼眸を以て其の裏面を觀察するに烏ぞ測らん前途の茫漠として何等の改良をも認むる能はざるに思擢はず嘆聲を洩すに至る。噫々慨嘆の極みならずや韓士の衛生、寒心せざるべけんや國民が衛生思想に乏しきを、

聆く當路者の焦心苦慮に因り多少夙夜の弊風を革むるに至りしとは言へ吾人の窺觀する處に據れば還は單に枝葉に渉れる淺皮想の舉にして之を以て直に其の根本を刷新するものと視るべからず奈何となれば今日まで當局者の執れる方針たるや乃ち防疫衛生に重きを措き保健衛生を輕視するの傾きあるを遺憾とす世に謂ふ是枝葉を斷て根本を枯らさんと欲するが如きものにして恰も水源の濁れるを思はずして徒に枝流の清まらん事を切望なすと何んぞ擇ぶところあらんや蓋し斯る狀態に於て往萬何等の劃策するところなからんか韓土二千萬の臣民が健康幷も何に因り保護を與へ何に依りて生命を泰山の安きに置むとはす

衛生要路の任にある者豈首肯を要すべき問題にして又寸時も忽諸に附すべからざる題要の事たるを須べからく悟認せずんばあらず抑も衛生なるものは人の保健を完ふするに要する凡ゆる機關を總稱するものにして之が機關の完備の有無は實に國運の進張事業の勃興に深大なる關係を有し援て國家の盛衰を左右するに至る

蓋し國民は國家の要素なるを以て從つて國民の健康なると否とが勢ひ國運の伸張に影響を及ぼすは今更に喋々贅言を費すまでもなし

老若貴賤個人國家の差別なく健康の貴重なるの理夫れ斯の若しは恰も枝葉を繁茂せしめむと企つに其の根を培養するの要あるに異らず而して健康を保持なすには防疫衛生及び保健衛生兩機關の缺くべからざる倶に須要なる事は彼の草樹に於て見る風雨其他の外部の侵害を防ぐに幹皮たる防疫機關を備ゐ繁殖即ち保健機關としては根より無機鹽類等の營養要素を要するが如し萬物生存の理實に天理に副はざるは莫し

然れば健康を維持するには防疫的衛生及び保健的衛生兩機關の必要なるは同じ之を認むるも若し保健的衛生機關にして缺かん乎所謂不良有害の營養物を供給するものなるを以て不知の間に致命症を釀す之自然の結果なり豈注意せざるべからず

即ち保健的衛生機關あつて後に防疫的衛生機關の必要を來す換言せば防疫衛生なるものは傳染病の傳播するに方り人只焦眉の急に處する一時的のものなり故に常に保健的衛生に努めんか防疫衛生の如き彌縫的の策は敢て重視なすに至らざるなり

然るに當路者が衛生行政の方針を窺ふに防疫衛生に重きを措き保健衛生を見るの輕き風あるは之吾人の窃に怪訝に堪ざるところにして其の根本の齟齬せる着眼の誤てる當局者の爲に執りて惜むものなり

夫れ人智は啓發し保健的公衆及び個人衛生の進捗して其の機關完備せられ亦各自に於ても之に注意する所あらんか傳染病の消滅は恰も朝露の日に消へ散るが如く漸次其の迹を絶つに至るや必して知べきなり然らば保健衛生の機關とは何をか言ふ曰く

水、空氣、土壤の良否試驗及び飲食物並に日用品等の衛生的害毒の有無を鑑定し以て保健の美果を收むるに外ならず而して其の化學的方術に據らざるべからず爰に於て其の機關運轉の試驗鑑定の事たるや一として其の機關運轉の個所即ち衛生試驗所を設くるの要あるは必然の結果にして衛生機關の整備せざる韓國に於て殊に其の急務なるを知る吾人が衛生試驗所設立の必要を叫ぶ亦故なきにあらざるなり(四月十六日稿)

小説

紘のみだれ

(百十八) 永井櫻國

お縫はいとゞ心を傷まして、

『ね、貴方、この雪ですから嘸かしお疲れなすつたでせうけれど斯麼所で冷なすつてはお體のために毒ですわ、さあ火鉢の傍まで入來つしやいまし。』

と、促し立てゝ、漸く四疊半の火鉢の傍へ連れて來たうして先づ沸花を汲んで、

『さあ、まづこれを一杯お上りなさいまし、いくらか體が溫まります。』



と、盃に載せて出せば、山田は妻の好意を無にするも氣の毒と、云ふがまゝに呷と呑み干して、力無い聲で、

『どうだ、お父樣はまだ見ねないか。』

と、尋ねた。

『はい、まだ見ねませんが、モウ先刻十時を打ちましたから、モウ追附け見ゆるだらうと思ひますの……如何でした、矢張押詰つてるから駄目でせうね。』

と、聞く。

『……あゝ、矢張駄目だつた。』

云ふ顏には不覺の涙が流れて居る、その顏を見たお縫は、良人の苦衷を察して、自分も泣かずには居られなかつた。山田は涙を袖に拭ひつゝ、

『……い、今にもお父樣が來らしたら、約束通り、金子が出來ねば、お前を連れて歸ると言はれるに相違ないが、これほど方々を駈け廻つて出來ない上は、到底金子は出來ないから、お……お前はどうか家へ歸つて呉れ……亦、小兒は私が其麼事を云へば、定めて薄情な男と思ふであらうが、決して薄情で云ふのぢやアない、浮世の義理で爲方なしに言ふのだから、必ず惡く想はないで下れ、能く世の俚言に四百四病の病より貧ほど辛いものはないと云ふが、僅か五十圓ばかりの金子で可愛い兒までである中を別れなきやアならないと云ふは、思へば思ふほど殘念で、殘念で……』

と、またも涙に袖を濡せば、お縫は涙に暮る聲悲しげに、

『……、私……私は家へ歸るのは厭でございます。可愛い此の兒や、良人に別れて何で家へ歸られませう……家へ歸つて往くほどなら、寧そ死……死んで了つた方が、増しで御座います……設令お父樣が何と言はうと、死んでも歸りは致しません。』

と、雨々と泣くのである。

『だつてお前、世の常の親ならば、可愛い孫のある中を、連て歸るの何のと誰が言ふものか、設令甚麼工夫をしても、金子ゆゑ連れて歸る親が三千世界にあるものぢやアないが、其處があゝ云ふ氣性のお父樣だから、金子が出來ないと言へばお前が何と強情を云つて見た所で、連れて歸らないで置く人ぢやアない、これと云ふのもお父樣が惡いのぢやアない、皆な私が意氣地が無いから起つた事だ、お前の親切は身に泌みて嬉しく思ふが、私は斯うなる約束だと諦めて貰乳爲ても此の兒は育てるから、ど……どうか一先歸つて往つて下れ、私が一生のお願だ。』

お縫は良人の辭に返辭も爲ず、默然として思案して居つたが、やがて、

『……貴方、私お願がございますが、聽いて下さいませんか。』

と、思ひ入つた樣子で言ひ出した。

京城新報

伊藤統監を迎ふ

伊藤統監閣下、昨冬閣下を送りてより既に半歳、當時余輩は閣下の重齢或は再び相見ることを能はざるを憂へしも、然るに今や老健矍鑠意氣天を衝くの勢を以て歸任せられ、久しく沈滯せる漢城の政界は頓に活況を呈し、余輩も亦迎辭を呈するの光榮に際會せり

閣下昨冬東上せられ、到る所に雄辯して曰く韓國の指導啓發は余の任なり、骨を韓國の山頭に埋て其守護神たらんと、余輩は當時之を聽きて歎じて曰く、何物か國民的氣慨を吐くもの哉、恐らくは火酒の余勢に驅られたるならむ、然るに其後更に一層の雄飛をなせるを聞く、然らば眞面目の覺悟なるかと始て信ずるに至れり

伊藤統監閣下、閣下果して韓國統治の爲に骨を埋むる覺悟ありや、古稀の老齢、位人臣を極めたる閣下にして、此大決心ありとせば、吾人は閣下の爲に祝すると共に、韓國の爲に賀すべし、啻に韓國のみならず何は忍ぶべしと雖も、帝國の發展に支障あるは如何にすべき、閣下の政策にして將來帝國の發展に支障あるが如きことあらば、閣下が如何に長白山頭に骨を埋むる覺悟あるも、帝國の發展に支障あるが如きことあらば、閣下が鮮明ならざるに於ては、折角の大決心も徒策にして從來の如く、優柔不斷曖昧にして、以て閣下を迎ふるに際し豫め警告せざるを得ず、これ余輩が今閣下を迎ふるに際し豫め警告する所以なり

閣下は統監府より頻繁なる情報に依りて既に諒知せらるならむが、閣下が東上以來、地方に暴徒頻々として、今尚ほ鎮定せざるのみならず、更に猖獗を極めんとする情勢あり、而して暴徒起以來在留帝國民の慘殺せられたるもの、財産を失ひたるもの其数多く、慘殺せられたるもの遺族は勿論、財産を掠奪せられ糊口に窮せるもの其數少からず、閣下の歸任を待ちて訴ふべき所を求めつゝあり、韓國の指導啓發も肝要なれども、保護政策の犧牲たる可憐なる同胞の涙を拭ひて、其業に就かしむるは大なる閣下の責任ならずや

閣下既に知るべし、閣下が檜名取得なる巧なる言辭によりて在留者の歡心を買はんとするも、閣下に對する在留民の疑惑は之を釋くに足らず、其他閣下が歸任せらるゝと共に、在留民は之を懽迎するも閣下の施政方針に就ては多く期待せざるなり、閣下の施設にして其當を得ざる時は、在留民は閣下の官の如く何時迄も默過するものにあらず、故に大官の建策は更に用ひられずして無權力なる在留民は之が爲に忍ぶ能はざるなり、其施政如何によりては、閣下の令名を傷くることなきを保せず、閣下それ如何、余輩は之を觀察せんとす、之を以て全く閣下の施政を鮮明にして、帝國民の一人たる在留民の爲めに其の進退を明にし、閣下が日本大臣として韓國の重任を帶びらるゝ所以は、其實は帝國民の一人として帝國の發展を圖るにあるべし

ことも也、閣下は博覽強記にして歐米の事情に能く通せらる、現時の英國が世界の到る所に勢力を扶植し、其隆盛を致せるは決して偶然にあらず、彼の英國宰相の名ありしウイリヤムピットが大宰相の印綬を帶るや、揚言して曰く、如何なる英國民の行く所必ずや其權勢を保たしめんと、何ぞ其意氣の壯烈にして自國民を擁護する熱烈なる愛國心を發揮せるや、海軍は之が爲に擴張せられ英人の到る所艦之に從ふ、閣下の知れる我が維新當時彼の生麥事件に徴するも分明也、斯の如くして始て海外發展の氣運熾なる政略の爲めには少數の在留民を犧牲とするも意に介せずと云ふが如きは、抑も物の本末輕重を顛倒せる論也

閣下の明敏なる余輩の苦言を諒とせらるゝことを信じ、迎辭に併て以上の進言をなす

統監歸東の噂

半年ぶりを以て歸任したる統監は六月中旬頃には又々東上せらるゝとの根據ある噂余輩の耳に入れり長白山頭に骨を埋むると否とは余輩の關する所にあらざれど歸任と東上が同時なるが如き節は是非共止めて戴きたいものなり

銀行と取引者

銀行は普通の金貸とは異なるが故に無暗に公衆の便宜とはなり得ずとは銀行者の切りに說くところなり、銀行は普通の金貸に非ざるが故に普通以外の便宜をも圖るべきものなり、二理は兩者の間に於て相互に存すべきものにて、一方のみを主張するは餘りに手前勝手なるところなりと思ふに、銀行者は理論に流れ實際を離れるならんと雖さりとは銀行者の勢力は偉大なりといふべし願はくは今一層取引者の心を平かにし刻下の金融問題を圓滿に解決せられんことを而らざれば銀行の局外中立も永くは維持するに由なかるべきなり

退韓の取消

大阪日々社長沖田氏に下されたる退韓命令は千代田理事官が私情に驅られて發したるものにて沖田氏が地方の治安に稍妨害ありとて無辜の操觚者に無暗に迫害を加ふるは言語同斷沙汰の限りなり、吾人は同業者として沖田氏退韓命令の取消に盡力せんと欲するも微力敢て當らずと雖も、之沖田氏の爲なり

東京電報

大博覽會陳列館

日本大博覽會の陳列館は教育、學藝、美術、農業、園藝、蠶業、林業、水產、食料、鑛業、機械、電氣、通運、陸海軍、家畜の十六館となる事に決定せり

代議士候補者數

衆議院議員候補者の數は既に五百三十餘名に達し今後に現はるゝ分を合せば六百名以上となるべし(以上十五日發事故延着)

各地電報

暴徒の鐵道破壞

昨夜二時忠清北道永同警察分署管內增若附近に暴徒現はれ鐵道を破壞しレール一を取り外せり(十六日太田發)

雜報

伊藤統監の歸任

豫記の如く伊藤統監には昨日午後三時三十分仁川發の特別列車に搭じ同四時五十分無事南大門驛に着したり當日警視廳にては時節柄萬一を慮かり公の身邊を警護すべく京仁間の沿線に多數の日韓巡査を配置し又列車內も嚴かに警戒を加へたり偖定時刻に至り列車の南大門驛に着するや先づ京城居留民團にては十數發の烟花を打ち揚げ居留民は一般に國旗を揭げて無事歸任の祝意を表せしが出迎人は文武百官は申すに及ばず民間の有志者新聞記者及京城尋常高等小學校職員生徒一同並びに韓國側の學校生徒にて一時は馬車人の山を築き寸地をさへ見る能はざる程なりき頓て統監には正服佩帶儼めしき統監服にさも擧動も快濶氣に先般の病氣上りの老体とも見ねず喜色を滿面に湛へつゝ李總理、趙法相其他の各大臣又仁川迄出迎へし曾禰副統監、長谷川大將、鶴原、石塚、岡、木內の各參與官及中原、小山の兩技師、國分秘書官及村田少將、岩崎少將等の諸氏を從へて下車しプラットホームに於て幾多出迎人の重もなるものに挨拶し夫れより騎兵、憲兵の嚴重なる警護の下に雄風堂々馬車を驅つて同五時十五分無事統監邸に入り久し振りにて南山の綠翠と顏を合はしたるが重ね〲も沿道の警戒は遺憾なく行き屆き南大門驛より統監邸に至る間巡査三百名を配置したりと

●統監の仁川着

伊藤統監を載せたる吾妻艦は千早、千代田、赤城の第二艦隊を從へ舳艫相啣み雄風堂々昨日午前十時過ぎ入港せり信夫理事官宮木稅關長富田民長の一行は滊艇に乘り込み本艦近く迄出迎ひたりしが又勅使侍從院卿閔丙奭、金春熙及び各部大臣、次官幷びに曾禰副統監、長谷川大將其の他統監府側の各高等官も本艦迄出迎へたり頓て統監には十二時十二分上陸し夫れより信夫理事官の先導にて理事廳に至り暫時休憩の後定刻の三時三十五分の仁川發列車にて入京せり當時上陸の際の警戒は却々嚴重なるものにて一隊の水兵は帶劍上陸し憲兵巡查と共に沿道を警備したり

●密使の風說

太皇帝には上海に滯留せる閔某に人蔘三萬斤銀千函金四十塊を預けあるを以て今回承寧府侍從玄興澤をして之が受取の爲め近々出發せしむとの風說あり因に玄興澤は前に密使として上海に渡航せんとして事顯れ目的を達し得ざりしこともありと云ふ

●密使逮捕せらる

李範圭なる者太皇帝が上海なる某銀行に預金せる九十五万元を引出しのため同地に渡航せんとし仁川に於て捕縛せられ目下其の筋の手に取調べを受け居れりと云ふ

●刺客所持の書面

スチーブンス氏を暗殺したる韓國刺客李麟榮は下手の際左の一書を所持し居れり

予は今スチーブンスを殺害す是れ彼が韓國に於ける厭制殘忍なる日本統治の主動者なりしが爲なり又彼が韓國政府の顧問官たりしが爲我が大韓國に於ける幾多の同胞の死を見るに至りたればなりスチーブンスは我が大韓國政府の顧問にして俸祿を大韓政府より受け居ると雖も彼等の事業は只日本國の利益を圖り正義と善政を行ふの米國人として大に韓國民の爲盡さんことを嘱望したる韓國人をして日本人の反せり彼れは極力米國人民の精神に對韓政策を信認せしめ日本が韓國を保護するは韓國の現今及び將來の爲めなりと云へり彼は韓國人民は日本政治の下にあるが爲に幸福なりと言ひたるは實に虛僞の言なり故に予は彼れスチーブンスを殺害す予が彼れを殺害せしは韓國人民の精神と日本政府の取れる專橫の處置を表示せんが爲なり予が彼れを殺害するや自ら決する所あり彼の虛僞專橫を知るや憤慨の餘り蹶然として起てるのみ嗟自由ならずんば死亦何かあらん我が大韓國同胞は日本政府の官憲に依りて故なく彈劾せられつゝあり予等何ぞ之を默視するに忍びんや苟くも國家を愛するの至情なく同胞が無辜に殺戮されつゝあることを見て恬然として立たざる者は寧ろ死するに若かざるなりスチーブンスは大韓皇帝に迫りて韓國の獨立を日本の掌中に歸せしめつゝあり嗚呼スチーブンスは實に人道の敵にして平和の攪亂者なり故に予はスチーブンスを殺害す予が自己の生を賭して彼れを殺したるは韓國民を治めんとする者に警戒を與へんが爲なり予は一片の不平なくして刑に服す若し今回の擧に依りて韓國の自由を恢復せしむるを得ば予は死すとも亦恨みなし嗚呼予はスチーブンスを殺害せり予も亦死せんのみ

●國有森林伐採に就て

內部大臣は暴徒のため家屋を燒燬せられたる地方人民に對し國有林を伐採して家屋建築の材料に供せしむべき旨觀察使郡守に向つて訓令を發したるが右は森林法の規定上內部が農商工部より購入し地方人民に向つて給與或は賣下ぐるものにして其の事務は觀察使郡守に取扱はしむるも由來韓國の地方官は種々の名目の下に山林を濫伐するの弊あれば當局者は充分の注意を以て監督せざる可らずと說くものあり

●農林學校卒業式

官立水原農林學校は昨十五日第一回卒業證書授與式を擧行せり式は午前十時を以て始まり校長本田博士は本科卒業二十一名林學速成科修業生七名並に本科優等卒業生二名速成科優等生一名本科一年修業生二十二名中優等生二名に夫れ〲卒業證書及び賞品を授與し終りて塲の訓示をなし次ぎに趙農商工部大臣署理、岡次官、中村農務局長、崔山林局長等の祝辭演說あり終りに本科卒業生總代は巧みなる日本語を以て速成科總代は韓語を以て答辭を述べ十一時半式を了りて午餐の饗應あり饗應後卒業生徒は講師一同を代る〲胴揚げする等極めて盛會なりき當日の來賓は農商工部大臣署理趙重應氏以下次官及び各局長水原觀察使以下同地在任の各高等官一進會長李容九氏其の他五十餘名なり

●紀念祭と神輿渡御式

○會期延期さる　豫報の如く會期を一週間延期して十一日より開會最終十七日に市民祝賀會を催ふすことゝなり昨日會長より各委員に向け通牒を發せり

○兩委員會議　昨日午後七時より商事係常務委員會を開き尚ほ本日は祝賀會係委員會を催す筈

○神輿舁夫決定　來る十一日より擧行さるべき神輿渡御式の舁夫は旭組大和組福島組に於て全然引受け尚ほ出入船の都合に依ては雜役夫をも請負ふことに決定せりと因に總員は百五十名にして神輿舁夫は八十名なりと云ふ

○神輿到着期　目下京都第一流の裝束師に於て製造中なる神輿は來る廿五日頃仕上り翌京都驛より鐵路馬關に送り該地より渡韓再び鐵路に依りて仁川驛(紐峴驛にては狹隘なる爲)到着の豫定なるが此間約一週間の日數を要する豫定なるが舁棒は長さ四間に餘り滊車積にするを得ざる爲め是れを船積となす筈にて商船會社と契約纒りたり

●暴徒鐵道を破壞せんとす

スパイキ十七本を拔取る

一昨十五日暴徒太田驛と增若驛との間に現はれ京釜鐵道を破壞せんとしたることは別項太田電報にある如くなるが今鐵道管理局に着したる電報に依れば線路巡回中の工夫は太田增若間にある九丁半隧道南口に暴徒約三十名集合し軌條の切斷を企て居るが如きを認め直ちに太田驛に此旨を報告したるを以て同驛に於ては守備隊に兵士の派遣を請求すると共に『隆』列車を增若に『熙』列車を太田に止め置きて線路の狀況を確認したる上列車を運轉することゝし十六日午前三時兵士乘込の臨時列車を太田より出發せしめ同五時五分現場より歸着したり線路はスパイキ十七本を拔取りありしも直ちに修繕を加へ、現場及び增若間異狀なきや否やを確めたる上其無事なるを認め兩列車の運轉をなしたりしが爲め『熙』列車は二時五十六分『隆』列車は三時四分間太田に遲着せりと

●益山郡東南方賊狀

去る九日益山憲兵分遣所より憲兵上等兵西作喜外一名を同方面に出張せしめたるに紆北面德洞(益山の東南方一里半)に於て全州警察署巡査二韓人巡査四は賊徒七八名と對戰し同巡査は其部落へ放火しある現場に出會したり依て憲兵上等兵は其附近を捜査したるに賊は已に退却し一名の負傷者倒れ居るを發見巡査と共に之を救護し且つ洋銃一挺巡査刀一を鹵獲し午後三時歸所せり依て取調べたるに負傷者は益山郡豆川面李化國三十八年にして李元五の部下と稱し本日同行八名冠洞里に向つて歸る途中巡査と遭遇せし旨申立たり尚李元五部下は二百名余にして各々銃及劍を所持せりと

●定山郡ヒコウ山の交戰

電報と天安憲兵分隊長よりの電報に依れば去る八日午後十一時定山郡ヒコウ山にて定山憲兵派遣所伊藤憲兵伍長以下六名暴徒約百名に出會交戰せしが其の際賊は死者六名負傷數名を出せしが鹵獲品は槍一本雜囊三火藥若干其他若干なり

●老隱面の賊

長湖分遣所憲兵上等兵三名は同守備隊下士以下六名と共同し九日午後二時より忠州郡老隱面方向捜査中の處德洞の村端に着するや賊の斥候らしき韓人二名韓裝せる我一行の接近せしを目擊し逃走を始めたるを以て直に之を急擊したるに街路右側の松林へ逃込み數發の銃聲あり因て追蹤して森林に突入せしが賊は直に西方龍堂山方向に敗走せり當時目擊せし賊は約二十名あり內三名を殪し銃一實丸廿發外火藥若干衣服數點を鹵獲す

●賊魁を逮捕す

當地警察署變裝巡査隊は慶州郡內に於て暴徒の首魁權秉鎬以下三名を逮捕し火繩銃七を押收せり

●李警視の報告

警視李憲珪十二日午前七時三十分京城揚州郡外面二碑に到り同碑廟洞人民二十餘名同廣巖洞人民六十餘名同樹林洞人民二十餘名を曉諭し進んで松山々下里の酒店に到りたるに暴動佐しき者一名あり適々一行の來るを見て倉忙として山谷の間に挾走したるを以て巡査をして急追捕捉せしめ取調たるに昨年十一月暴徒大將延基浩の部下となり又本年四月暴徒大將申明在が徒黨を率ひ來りたるを以て更に之に隨ひ揚川郡馬頭里に至り一夜宿泊の後歸家して身を隱し居たるに今回捉へられたるを自白したるを以て陣中に留置し東鶴洞に至り洞民五十餘名を曉諭したり

●扶助料支出

十五日金五萬圓內閣顧問須學雲氏祭料及遺族扶助料として支出さる

●道路調査委員會

一昨日開會すべき新道路改築調査委員は熊谷民長仁科助役等打揃つて豫定線を踏査したるのみにて開會せざりしと

●憲兵の仁川着

昨日仁川に入港したる一分御用船江陽丸より憲兵百二十六名上陸したり

●各學校聯合大運動會

韓國官私立各學校に於ては來る二十五日訓練院に於て春季聯合大運動會を開くと云ふ

●皇帝皇后の御運動

皇帝皇后には例の如く秘苑御運動の爲め一昨日午後二時二十分出御五時五十分還御あらせらる

●岩井敬太郎氏

統監府警視岩井敬太郎氏は今回統監府書記官に任じ高等官五等に叙せられたり

●岩井長三郎氏

大藏省臨時建築部技師岩井長三郎氏は統監府書記官に任じ高等官六等に叙せられたり

●近事片々

▲間島　愈々統監府派出所設置されて齋藤大佐所長として赴任せり行懸上此人適任也

▲統監　政治は往々個人の利益を無視する傾きあり間島に於ては此弊事なきを切望す

▲例之　中野天門の如き先驅開發者の利權は充分認めて冒險男子を獎勵する必要あり

▲猛然　險を冒し艱に堪へ荊棘を開て勇進する烈士の獎勵は帝國發展に大影響をなす

▲如斯　間接の大事は到底俗吏の解する能はざる所局に長たる者の人格大に選ぶべし

▲何事　も杓子定規を以て檢束するは總て振はざる原因也俗吏の失敗茲にあり

▲宋農　相トウ〱置てき堀に遭ふ藪の子供を見る爲とは言譯として面白くないハヽ

▲當る　積で仕組だ一進會の芝居もどうやら物になりそうもないハテ一工夫變るかな

▲統監　歸任して韓人政客の風說盛に巷間に傳はる何れも狐を馬に乘せたる如き事也

▲巷說　中最も多きは太皇帝誘引說なり半島の亡る眼前にあるが如く吹聽す殆ど兒戲

▲韓人　は天成の外交家風說製造匠あり之を吹聽し廻る口使あり斯くして自ら驅廻る

▲英國　內閣の改造成るジョージ氏の大藏クリユー氏の植民の如き適任グ外相居据也

▲改造　內閣はアスキス、ローズベリーとの聯合內閣也前內閣よりも却て鞏固ならん

▲西園　寺內閣千家堀田を入て彌縫せる手際より優る永續せざるもア氏の前途や多望

▲佛國　大統領及內閣全体を擧て英國を訪問すと近來英佛間益々接近是何を意味すか

▲露國　極東公使を更迭す日本に上院議員マレウイッチ淸國に同イリインを任命せり

▲露國　もイヅオルスキー外相たる間は極東政策極て無事なり却て東歐政策は强硬也

▲空中　飛行器流行の時代となる佛國今回の飛行器は最も優勝の成績列國皆喝采せり

▲成績　は六分三十秒に四哩半を快走し世界のレコードを破る科學の進步も驚くべし

▲自然　主義の流行は青年男女を益々墮落せしむ芝公園に男女いちや付巡査に叱らる

▲男女　之に服せず滔々と自然主義の講釋をなし巡査持て餘し終に警察署に引致せり

▲又も　警察に自然主義を說く男は美術學校の生徒女も音樂學校の生徒困つた厄介物

▲自然　主義本能主義杯と種々な名稱を付て青年男女を墮落せしむる所謂文士が惡い

●西河通徹氏　西河通徹氏は來京持病の爲引籠中なりしが此程は大に快癒に赴かれたり

●菊池長風氏　長風菊池氏はトラホームに罹られ目下眼科醫に通院中なり

公人私人

△松田應遵(法典調査委員)　十五日佐伯旅館へ投宿

△山本鐘藏(...)に滯在中なりしが十五日釜山へ向け出發

△齋藤大吉(京都帝國大學教授)　去る十三日より同上

△前田國藏(陸軍步兵大尉)　去る五日より花屋に滯在中なりしが十五日北青へ向け

△安武千代吉(熊本縣辯護士)　十四日來京十五日歸縣の途につけり

△鳥居廠次郎(臨時財源調査局技師)　十五日出發せり

△鈴木穆(統監府事務官)　去る十日[illegible]

△[illegible](仁川警察署長)　[illegible]

●西河通徹氏 西河通徹氏は過日來持病の…引籠中なりしが此程は大に快癒に赴かれたり
●菊池長風氏 長風菊池氏はトラホームに罹られ亦風邪に犯され目下引籠中なり

△松田麗遊(法典調査委員) 十五日佐伯館へ投宿
△…山本旅館に滯在中なりしが十五日釜山へ向け出發
△齋藤大吉(京都帝國大學教授) 去る十三…

△齊藤嘉吉(陸軍步兵大尉) 去る五日より花屋に滯在中なりしが十五日北靑へ向け出發
△成田將三(同上) 同上
△安武千代吉(熊本縣辯護士) 十四日來京十五日歸縣の途につけり

△鳥居…
△鈴木信太郎(統監府事務官) 去る十日より日來京佐藤旅館へ投宿せり
△平渡信(海州警察署長) 去る四日より浦尾旅館に滯在中なりしが十五日海州へ向け出發

●夜の南山(下)

京城にも所謂自然主義なるものが這入て來たと見へる、風の神速にも驚くじやないか段々統監府の前に來ると、女學生らしき令孃と、若い官吏らしい男と手を曳き合ふて嬌語喃々として登て來た、一天晴れ渡て月の光は着物の縞目まで見ゆる明るさに少しは人目を耻ぢさうなものだ、渠等二人は何の憚る所もなく、醜態を演じつゝ登り行く、僕も更に引返した、令孃らしい女は男の手を確乎と握り「妾聞たわ、貴君お國に奥さんがおありなさるッて」と甘へる樣に云へば、男はハヽアと笑ひながら「ありますさ、許嫁の百姓娘が、しかし貴孃とこうなつては、あんなものはドウでもいゝさ、そんなことより早く結婚しませうや」これを聽て令孃は微笑「貴君貴齋、妾嬉れしいわ」と餘念なく語り合ふ、何時迄聞くでもないと僕は亦た統監府の方に歸り掛る、すると今度は金筋のサアベル役人が、泥醉して大手を振りつゝ大意張りでやつて來た、多分花月か翠できこし召て來たに違ひない、僕はさう思つた、料理屋へ呑に行くまで正服着用サアベル下げて行かなくてもよさそうなものだと、筋は二本筋で顏も名も知れる人だがそれは預からう、それからぼつ／＼下りで海軍官舍の所に來ると、朱乘駿の家の方より亦た金筋が二人やつてきたこれは双方とも一本筋なら、二人とも鼻息はなか／＼荒い、俸給論を闘はしつゝ二人併で横行濶歩、平民たる僕は路を避けざるを得ない、此二人も何處か小料理屋できこし召して來たのだ、酒氣紛々、若い身そらで料理屋這入して判任官で得々とは情ない又其跡から藝妓が二人來た軈て日の出町の方に曲つた、多分官舍進擊だらう。此頃の夜の南山はまづざつと斯の通りである、

●活動寫眞御覧

既報京都横田商會の活動寫眞の一行は一昨十五日夜昌德宮勸政殿に於て皇帝皇后の御覧に供したり七時半出御あり十時廿分迄間斷なく皇太子御渡日當時の模樣其の他新なる寫眞十數種を撮影し同商會員阪田千曲氏説明趙法相の通譯したるが影畫中不思儀の卵は皇帝皇后共非常に感興を催されたる樣子にて屢々御下問あり終了後小宮次官より挨拶あり御滿足に思召されしとの御事にて一同へ晩餐を賜はり面目を施して退出せりと云ふ因みに同寫眞の一行は各官衙軍隊等の招聘に依り影畫する由尚ほ德壽宮にて太皇帝嚴妃にも御覧に供する筈なるが時日は未だ決定せずと

●南署の淫賣征伐

京城の料理屋飲食店は其の實淫賣宿なるも從來警察署は放任否黙許の態度を執り居りしことゝて其の跋扈は甚しく新町や龍山の遊廓の擇はざるも其の原因の一は慥かに此の密淫賣屋のあるが爲めにて遊女屋側にては大に不平を鳴らし居りしことは夙に耳にせし所なるが南部警察署にては風紀取締、風俗廓清の名の下に於て今假かに大にこれが取締を嚴重に爲すこととなり一昨日是等店主を招喚して嚴達し其の夜直ちに密淫賣婦狩を爲し不運にも網に罹りたるもの左の如し

永樂町一丁目福宮亭方 中原トモ(十七)
同 上田ミツ子(廿一)
明治町二丁目吾妻方 樋村ハル(十八)
同町小淵磯吉方 中川トヨ(廿一)
同町三桝屋方 江崎フジ(十九)
同町緑亭方 小谷ツル(十八)

而して一般の料理屋飲食店に對して將來風紀を紊るが如き行爲あるべからず又往來頻繁の場所にある料理屋飲食店は遠からず日を期して禁止すべきにつき今の内相當の所に移轉すべきことを嚴達したれば頹廢其の極に達せし京城の風紀も日ならずして挽回せらるゝことならんが吾人は更らに囑望するものあり料理屋飲食店以外に待合なるものあり彼等は客の需めに應じ良家の子女を誘拐して賣春婦に墮落せしめつゝあり甚しきに至つては薄給官吏の令孃や會社員などの妻君の如きも此の待合所の媒介によつて密かに淫を鬻ぎつゝあるもの尠なからずど願くは是等も迅に取締ありたきものなり

●濟度し難き愚物(下)

張の訴へ出でに依り西部警察署にて警部方台榮氏之が係りとなり被告を呼び出だして種々取り調べしが結局張が紛失せし二百圓の手形にして發見さるれば可しもし然らずとすれば或る一定の期日を限りて猶豫をなしもし其の期日を越ゆて尚分らざるやうなれば其の時は張に於て責任を負ひ手形額面全部の償還をなすべしてふ保證さへさすれば何も六ケ敷事をいふに及ばず又張の望みも固より夫れなれば兎も角も直ちに現金二百八十圓を原告に戻さるゝやうと懇々と諭したるに成程と心に感じたる樣子ありしも徐は頑然としてイツカナ聞き入れず警察の云ふことは我々の一言に依つて什麼にもなるそんな理屈が何所の國にあるものか我は苟くも兩班サラミの息子だ兩班は巡査や警部から見るとズット豪いと言はぬ許りの態度もていとも横柄に構ね折角の方警部の諭告を嘲笑ふ如くに打ち消しそんな原告に取つての都合の可い事は斷じて出來兼ねますと憎々し氣に異議を申し立てたれば方警部も持餘し此奴濟度し難き没分曉漢と心にては思ひしも尚ほ一應すかし見んと強ひて言葉を和らげ世の譬へ事や人間の義理合等の事やらいろ／＼と手を替へ品を替へて諭す所ありしも頑狂の彼は什麼しても其所の行き筋が分らず飽迄自分許りの屁理屈を竝べ立つるにぞ方警部も呆れ果て何時迄此んな奴に物を云つた處で馬の耳に念佛所詮埒明かずと思ひ此の度は威に向つて以前の言葉を繰り返へし懇々諭す所ありたり扨方警部が威に向つた種々諭告の際爰に又々新なる一の事件こそ持ち上りたれ是は前日張が威に戻せし四百圓の手形を徐が密かに取り出し寸々に引き裂きしことなるが何れは事理を辨べざる愚かの身の謂れなく輕々と引き裂きしとも思はるれど多分は張を憎むの餘り飽迄彼を窮地に陷れんとするの所爲なるべし方警部はゆくりなくも今役に此の新事實を發見しければ面の當り打ち捨て置く譯にも行かず直ちに徐を拉して訊問課に連れ行き嚴しく其の事實の有無に就て質したるに彼は平然として毫も騷がず其のやうな事は露程も身に覺はなく斷じて知らぬ存せぬとの一點張り方警部も困つた强情漢かなと思ひしも如何にかして實を吐かせんものをと精限り根限り執着く訊問せしに彼は終に其の訊問の鞭にや堪へざりけん、なれどハイ其の手形は確に自分に於て引き裂きましたとは白狀せず唯一言、自分の知人に苟くも從二品の位を辱ふせる徐なる兩班あり此者は外には隆々の威望あり内には陶朱も及ばぬ程の資産ある身分其の者を保證人として立てある期間内に手形額面の金員を處理さすべしと申し立てたれば方警部も其の强情の程度に呆れ果てしが今は是より追窮する必要もなければ時日を期して其の兩班なる保證人を當署に連れ來り約束の違はぬやう本官の眼の前にて保證書を作るやうと申し渡し其の日は夫れにて一同を引き下らしめたり翌る日方警部は先きの事件の解決せざれば此の度は原告の張と被告の威とを警察署に喚び出せしに又々徐が來りたれば警部はお前は物の道理を辨へざる愚物なれば出頭するに及ばず疾く歸れと叱り付けしに彼は威の入り居る訊問課の下の靴脱ぎ石に蹲踞し不相變訳の分らぬ屁理屈を叩き居るより警部は辭色を勵まして大喝せしに彼は飽迄平氣にて且つ口を開いて言く此れ迄自己の習ひとして兩班の前には警務廳は一の木像だ警察官が何にかとの暴言を吐き其の他又口の中にて何にやら囁きながら悄々と立ち去りたるが方警部も此に至り實に持て餘し其の自國の兩班思想なるものが如何に頑迷にして擅私なるかは今更らながら呆れ果て寧ろ憐愍の情に堪へざる樣子なりしと扨て右の事件の顛末は如何なる事に成り行くや勿論性質上民事に屬するものなれば何れは其の方面に廻はさるゝ事なるべし

●お客が亂暴しなはれます

再昨夜の午前一時頃永樂町の巡査派出所へ竹園町一丁目の料理屋浦川梅太郎方の仲居が急訴に及びしより同所の巡査が急ぎ出張して見ると永樂町二丁目の村田組工場内に居住する長崎縣生れの荷馬車挽藤本松次郎(二五)が二人の友人を伴ひ登樓し折角愉快に飲んで居る最中に彼の旭町の火事ありて二名は消防夫たるが故に其まゝ飛び出したるより跡に殘れる松次郎に勘定を請求せし處其の請求の仕方が横着だとかいつて勘定付を持ち來りし酌婦の横面を打擲し烟德利を倒して酒を座敷に流したとのことなれば亂暴さいふ程でもなく勘定は四圓九拾錢なるが本年二月に店主梅太郎へ三圓六拾錢の立替金あればこれにて立用して呉れといひ梅太郎は目下病氣の爲め某病院へ入院中にて立替金を受け居るや否やは不明なるも暫らく其の要求に從ひ差引殘金壹圓參拾錢を支拂へといへば壹圓丈け所持し居るも三拾錢足らずといふ始末にて松次郎も大に顏色を失ひしが其の一圓だけ貰へば殘りは僅か三拾錢のこと故明日でも送つて呉れよと優しい挨拶に松次郎も今は苦情の持ち出し場なく巡査より說諭せられ這々の體にて歸り去りたり

●神棚を打ち破る

一昨日の午後六時半頃本町六丁目の魚商吉兼百太郎(四十)が擔軍に神棚を背負はせて本町五丁目を通行の際折しも向ふより大和町一丁目の中川方滯在の大工中島市太郎(二十)が酒氣を帶びて來かゝり行き過ぐる際其の神棚の端が市太郎の頭部に觸りしさかにて市太郎は已れと言ひさま擔軍が荷へる神棚を引き卸し微塵になれよと足にて踏み破りしより百太郎が斯くと見るより市太郎に喰つてかゝり爰に一場の大立廻りをなしける處へ巡査が來て市太郎に損害金五十錢を出すべく命じて和解せしめたり

●店の前へ店を張る

一昨日の午前七時頃のことなりき南大門通り二丁目の朝市場へ會洞八十一統一七戶の賣商金昌鉉(二十)が賣店を張つて居る前へ明治町三丁目の雜貨商德永嘉平(六十)が商品を陳列せしより昌鉉が嘉平に向つて其取除を要求し嘉平が馬鹿なこと吐かすなどいつて取合はざるより昌鉉が怒つて嘉平に取つて掛りたれば嘉平は日本人氣質で承知せず昌鉉が被れる帽や衣服を打ち毁し爰に一場の大格鬪を始めたるを折しも通行の巡査が取り鎭めたるに昌鉉は帽と衣類の賠償を求めたり然れども昌鉉が先に手出しをなして格鬪するに至りしものなれば其の要求を斥け嘉平に向つて說諭を加へて行き過ぎたり

●ヨボの醉つ拂ひ

去る十五日午後四時頃墨洞居住金姓女(五七)は濁酒を鱈腹飲みし結果非常に酩酊し附近を千鳥足にて徘徊し戶毎に亂暴を働きたるため警察署に拘引され醉の醒むるを待つて放還されたり

●火事見舞に醵金

再昨夜の旭町の火災に京城民團役所の掃除監督磯野幾吉は篠山氏の邸内に居住せしことゝて家財道具を殘らず烏有に歸したるより同役所員は若干宛の醵金をなして見舞として贈りたりと同僚の交誼は左もあるべし

●韓南島嶼の富源

度支部財務週報の附錄として發刊されたる韓南島嶼の富源なる一冊子は釜山稅關谷本稚松氏の調査したるもの及び釜山商業會議所大池忠助氏の調査に係るもの等を收め韓南諸島嶼に於ける現今の狀況其他產物等洩らさず記載しありて韓南各島嶼經營に志あるもの〻最も欠ぐべからざるものなり

●土耳古煙草大賣出し

本町六丁目岡野商店及び堀、中塚の兩商店にては今回トルコ煙草會社の代理店及特約店たる契約をなしたるを以て去る十五日より右披露のため景品附大賣出しをなしつゝあるが顧客頗る多く各店共店頭非常に賑ひ居れりと

●對瀨川巡查義捐金

四月十三日より十四日迄の分

一金壹圓也 安齊長四郎君寄贈
一金壹圓也 眞野景象君寄贈
一金壹圓也 中島茂太郎君寄贈
一金壹圓也 川上三子熊君寄贈
一金壹圓也 增永三郎君寄贈
一金壹圓也 藤本强君寄贈
一金五拾錢 振威驛長日高政壽君寄贈
小計金八圓五拾錢也
累計金參百貳拾六圓八拾五錢也

船客運賃値下

◎四月一日ヨリ左之通三等船客運賃ヲ引下ゲ申候

仁川ヨリ
一神戸 大阪行 金八圓
一門司 下ノ關行 金六圓
一宇品行 金七圓
一長崎行 金七圓
一鎭南浦行 金三圓
一龍岩浦 新義州 安東縣行 金五圓

京城ヨリ（京仁間汽車賃含ム）
一神戸 大阪行 金八圓五十錢
一門司 下ノ關行 金六圓五十錢
一宇品行 金七圓五十錢
一長崎行 金七圓五十錢

●御注意 團体ニハ特別ノ割引アリ 往復切符ハ復航二割引

大阪商船株式會社仁川支店（電話一二〇番 同 二一二番）
京城本町二丁目角 林田商店切符發賣所（電話六五番）
京城南大門通 慶田組出張所（電話九四九番）

夏物新着荷大賣出し

空氣呼鈴並に室内電話

斬新流行の洋傘やねくたい其の他歐米雜貨各種荷着致し候間御觀覽旁々當店へ御來店有られん事偏に乞願奉り候敬具

歐米雜貨商
韓國京城本町六丁目
中塚支店

諸衙官用御品調達

營業科目	
紙類書籍	印刷附屬品
印刷インキ	防腐デシン
穀物食鹽	織物染料

各學校用品調達

并に委托販賣

東京 合資會社アライアンス商會代理店
横濱百七十六番 ビユームエンドライフ商會代理店
東京 千代田生命保險相互會社代理店
東京 博文館發行書籍特約店
東京 金港堂發行書籍特約店
釜山 臺鹽合資會社食鹽特約店

藤田合名會社
本社 京城明治町二丁目 電話二三〇番
出張所 東京 京橋區南鍋町二丁目 電話新橋三九六二

西洋御料理宴會
日本人倶樂部
京城南山町三丁目 電話（一二三番）

開業廣告
○○內科 ○○外科 ○○眼科
○○婦人科 ○○小兒科 ○○花柳病科
今般左記之處に於て開業致し懇切と叮嚀を旨とし一般患者の診療に應す
京城南大門外御成町
院主 吉田三省
吉田病院

謹告
エジプト莨及マニラ葉卷其他煙草類各種
西洋雜貨洋酒洋菓子並に支那糖菓及紅茶

在韓清國人
大連 安徽 頭彩 金壹萬圓 第三十次（陰暦四月二十日 清暦三月二十日）開彩
湖北 頭彩 金五萬圓 第七十五次（陰暦四月廿七日 清暦三月廿七日）開彩
江南 頭彩 金壹萬圓 第十六次（陰暦四月十六日 清暦三月十六日）

定價
湖北彩票全紙金七圓五拾錢 小切八拾錢
江南彩票全紙金七圓 小切七拾五錢
大連彩票全紙金壹圓參拾錢
安徽彩票全紙金壹圓參拾錢

西洋雜貨商 源源號
京城水漂橋二宮街

銀行一般業務精々御便利に取扱可申候
資本金 參百萬圓
積立及繰越金 八拾萬圓

本店 長崎市築町
支店出張所 京城、仁川、釜山、群山、木浦、元山、鎭南浦、龍山
韓國 京城南大門通（電話四一〇）

株式會社 十八銀行 京城支店

日本 大阪、佐世保、五島、熊本、嚴原、壹岐

其他日本韓國樞要地及露領浦鹽に爲替取引先あり

貯蓄預金 一口壹錢以上何程にても御預り申候（利息日歩壹錢四厘）
長崎貯蓄銀行代理店（十八銀行京城支店）

齒科全般の治療
米國最新式義齒
米國齒科醫學博士 女醫 中村安子
京城本町六丁目（蕎そば横町）

疊製造商並に表替
電話開通九百十八番
京城本町六丁目
弊店儀各位の御引立を蒙り日増に繁榮に趣き候段難有御禮申上候就ては今回熟練の職工手揃候に付一層勉勵平素の御眷顧に酬ひ可申候間陸續御用命の程伏而奉懇願候 敬白
金崎仁三郎

銀行一般の業務精々御便利に御取扱可申候
資本金 三百万圓
本店 大阪市西區北堀江通五丁目
支店 釜山、仁川、平壤、鎭南浦、安東縣
株式會社 第五十八銀行京城支店（電話五八番）

爲替取組先	
內地 東海道 山陽道 南海道 北陸道 山陰道 臺灣	二十七ケ所 十三ケ所 七ケ所 二十三ケ所 五十五ケ所 二ケ所
東海道 北陸道 山陰道 西海道 韓國 清國	二十八ケ所 十ケ所 十三ケ所 三ケ所 九ケ所 一ケ所

會席御料理並に仕出し
京城三好町歌舞伎座前
筑紫亭

一層業務を擴張し敏腕の事務員數名を增聘し迅速且つ懇切に左の事務を取扱ふ
一民刑訴訟の鑑定及諸般代言事務
一貸金賣掛金等に關する債權取立事務
一鑛山及土地の測量製圖並に出願手續
一會社組合銀行等の顧問
京城本町一丁目
明治法律學校出身
增本好三郎事務所（電話取次六二四番）

横範靴製造販賣
堅牢



開店御披露
開店御披露トシテ本日ヨリ當分ノ內正價ノ一割引ヲ以テ大賣出仕候
京城明治町三丁目
北村商店

理想的 健胃劑



代理店 京城 仁川 新井商店

石材販賣廣告
一橋梁 一土工 一建築
一切之石材
右特別廉價を以て販賣致候に付多少を問はず御注文被下度奉希上候
京城水樂町三丁目廿一番戶
白井石材販賣所

▲懇切なる通關▼
懇切を本旨として通關を取扱ひ迅速を特色として運送に從事致候間御用命奉願上候
京城南大門外吉野町
▲迅速なる運送▼
㊁運送店

謝近火御見舞
京城本町一丁目
藤井商店

謝近火後見舞
京城旭町三丁目
井上看板店

謝近火御見舞
京城旭町三丁目
表具師 高瀨光榮堂

謝近火御見舞
旭町三丁目
鮎 貝房之進

一昨夜近火の際は早速御駈付被下難有奉深謝候一々拜趨御禮可申上筈之處混雜中御尊名伺漏れも可有之被存候間乍略儀紙上を以て御禮申上候以上
京城旭町二丁目
富士商會（電話九四四）

謝近火御見舞
旭町三丁目四十六番戶
十全病院（電話七三七）

謝近火御見舞
旭町三丁目
內外醬油雜貨商 川本商店

謝近火御見舞
旭町三丁目五十一番戶
開進亭（電話九三二）

韓國京城
株式會社 第一銀行
電話番號 營業用 二一番 國庫用 六二番
當直用 生度用
營業用 三二一番 分析所用 六二二番
本店 東京市日本橋區兜町
內地支店、出張所 大阪、京都、横濱、神戶、名古屋、四日市、下關、兵庫、伏見、大阪西區、東京新大阪町
韓國支店、出張所 仁川、釜山、元山、鎭南浦、群山、平壤、木浦、大邱、開城、咸興、城津、馬山、義州
清國安東縣
右爲替取引先あり
は外內外各地重要なる場所に
營業事務に關する御用向は當店營業課長に御相談被下度候

襖新調並ニ張替
京城旭町三丁目三ケ月旅館前
表具師 高瀨光榮堂

日本澤庵
味噌醬油製造
乾物荒物鑵詰
銘茶食料雜貨
漬物問屋
京城本町五丁目
大上商店（電話二五一番）

拾有八年の實驗 最新學術の應用
京城南山町三丁目
齒科醫 六等 勳 楢崎東陽（日本人倶樂部向）

訴訟、鑑定、契約起案、諸願屆、登記登錄等代書、土地家屋賣買、金錢貸借、電話賣買等の周旋
京城本町一丁目警察署前
明法學士 小川勝平事務所（電話四十一番）

日本郵船株式會社仁川出帆廣告（電話十番）
貨物及船客取扱店
仁川海岸通 郡回漕會（電話三九番）
京城南大門通 巴商店（電話三〇六番）

●釜山長崎門司神戶行 山東丸 四月 日 後三時出
●群山、木浦、釜山、門司、神戶、大阪行 第一オハヨ號 四月廿九日 後四時出
●大連、大沽、牛莊行 鐵路丸 月 日 後三時出
●大連、大沽、牛莊行 高砂丸 五月十四日 前五時出 山東丸 四月廿八日 前五時出
●鎭南浦行 酒田丸 四月廿三日 後一時出
●釜山出帆、元山浦鹽行 第一オハヨ號 四月廿六日 後三時出 弘濟丸 四月卅二日
御注意 御乘船ノ際ハ稅關波止場ヨリ本社送迎船ニテ御送迎可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ艀場ヲ離ル[illegible]